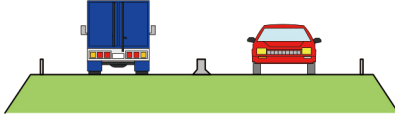
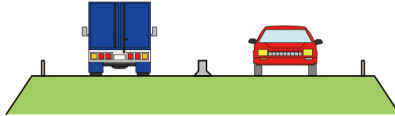


九州横断自動車道延岡線(矢部～蘇陽)ルート帯案のポイントと道路構造

	ルート帯案のポイント	ルート帯案の道路構造
案①	<ul style="list-style-type: none"> ・ 別線で、矢部IC(仮称)～蘇陽IC(仮称)を土石流危険渓流や集落分断を回避しながら最短で接続する。 ・ 山間部を通過し、国道218号沿線の集落・産業施設から離れた場所(約1.5km～3km)に中間ICを設置することが想定されるため、アクセスに時間を要する。 ・ 国道218号から離れた位置の通過、主要な幹線道路との交差がなく、施工時の工事進入がしづらく、整備に時間がかかる。 	
案②	<ul style="list-style-type: none"> ・ 別線で、矢部IC(仮称)～蘇陽IC(仮称)において、土石流危険渓流を構造物により回避し、集落や産業施設に配慮しながら接続する。 ・ 概ね国道218号沿線を通り、沿線の集落・産業施設から近接した場所(概ね数百m)に中間ICを設置することが想定されるため、アクセス性が高い。 ・ 国道218号や主要な幹線道路付近を通過するため、施工時の工事進入が容易で、整備に時間はかからない。 	
案③	<ul style="list-style-type: none"> ・ 国道218号を改良し、線形不良箇所が多く連続する区間は別線で整備しながら、矢部IC(仮称)～蘇陽IC(仮称)を接続する。 ・ 集落、施設からの直接乗り入れが可能であり、アクセス性が最も高くなる。 ・ 国道218号の沿道には隣接する家屋があり、生活環境への影響が最も大きい。 	